

# 高温期における葉ネギの発芽を促進する 種子吸水処理技術

野菜部

## 1 背景、目的

葉ネギ栽培において7～8月に播種する作型では高温により発芽が不安定となり、生育遅延や収量の低下が問題となっています。

そこで、種子の発芽を促進させ、生育を早めることにより、高温期に播種する作型において収量が増加する種子吸水処理技術を開発しました。

## 2 成果の内容、特徴

1) 種子吸水処理の方法は、図1のとおりです。

葉ネギの種子を15℃で24時間水に浸漬し、水切り後、吸水性が良い布等の上に広げ、処理前の種子重量の1.50～1.55倍の重量になるまで風乾させ、15℃で6日間密閉処理を行います。

2) 種子吸水処理を行い7月下旬に播種すると、ほ場での発芽率が80%以上に達する日数が、無処理より3～4日早くなり、収穫までの日数を8～10日短縮できます(表1)。

3) 種子吸水処理を行うと、収穫時の平均1本重が無処理より重くなり、商品収量が13～18%増加します(表1、一部データ略)。

4) 種子吸水処理が完了した種子は、密閉容器に入れ冷蔵庫(4℃程度)で保存しておけば、約2ヶ月間処理効果が持続するので、一度に複数回播種分の種子を処理できます(データ略)。

### 3 主要なデータなど

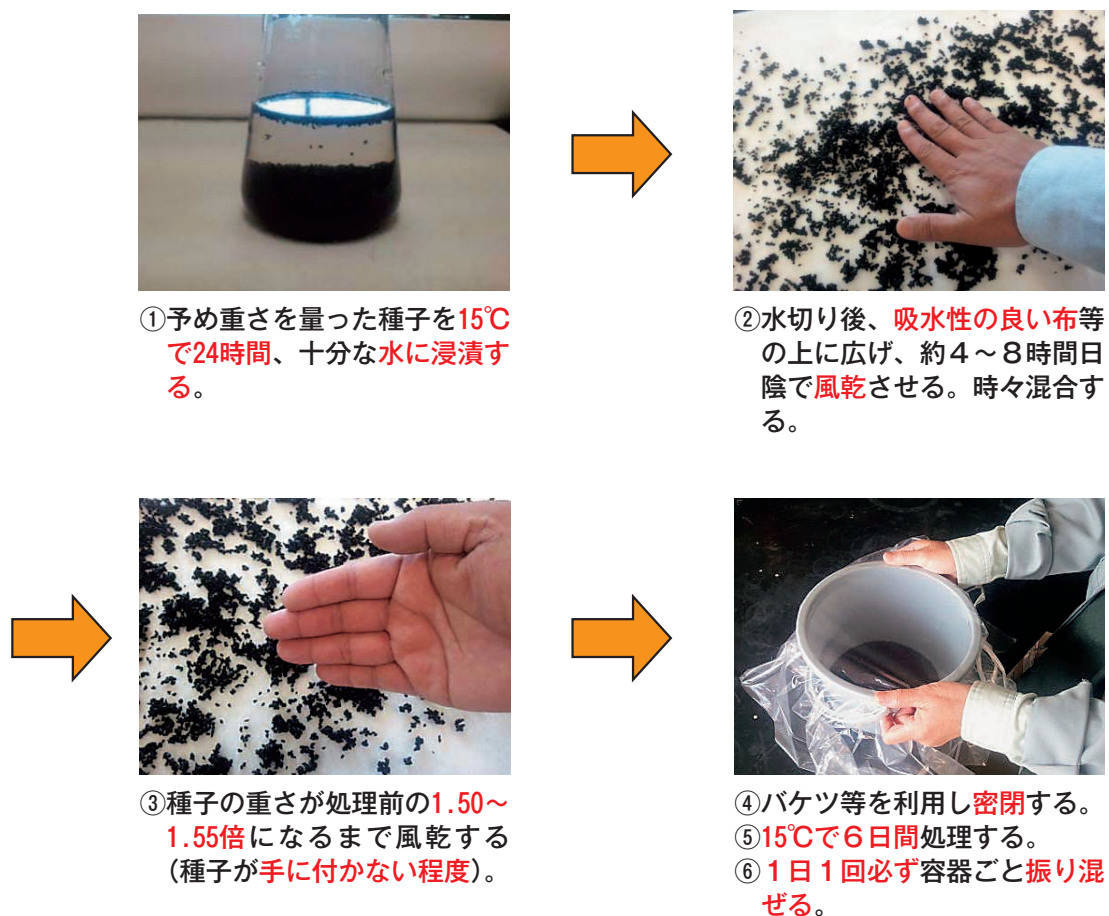


図1 種子吸水処理の方法

表1 種子吸水処理とほ場での発芽率80%到達日数、収穫までの日数および収量

品種	種子吸水処理	発芽率80%到達日数(日)	収穫までの日数(日)	商品収量(調製重、kg/10a)
夏元気	有	7(−4日)	84(−8日)	4,581(18%up)
	無	11	92	3,869
FDH	有	8(−3日)	86(−10日)	3,611(13%up)
	無	11	96	3,184

注) 1. 播種日：平成23年7月27日、播種密度：100粒/mを手で播種。  
2. 収穫はMサイズ(草丈50～59cm)に達した時点で行った。調製は本葉1.5～2.0枚で行った。  
3. 発芽率80%到達日数、収穫までの日数および商品収量の( )は無処理区に対する日数および割合。